

# 第 25 回英詩研究会

2024 年 9 月 28 日 (土)

於 慶應義塾大学日吉キャンパス来住舎 2F 大会議室  
対面開催

## プログラム

### 1. 開会の挨拶 (13.10 – 13.15)

### 2. 研究発表 (13.15 – 14.00)

司会 五十嵐奈央(宇都宮大学)

講師 藤田萌々子 (同志社大学大学院)

「W. H. Auden の新たな時代——*Another Time* の “Occasional Poems” を読む」

### 3. シンポジウム「詩と風景」(14.15 – 17.50)

#### オムニバス発表 (14:15 –)

司会 井上和樹 (埼玉大学)

#### 初期近代・16/17 世紀

失われた楽園としてのアロー山——『妖精の女王』第7巻における牧歌的風景

講師 円浄ゆり(同志社大学)

シェイクスピア劇における言葉と想像力が紡ぐ風景

講師 木村明日香(中央大学)

#### ロマン主義・19 世紀

P. B. シェリーにみられるロマン派の風景と追憶

講師 木谷巖(帝京大学)

ラスキン以降の詩的風景

講師 石川大智(慶應義塾大学)

国家の創生と傷——19 世紀アメリカの『風景』詩

講師 倉田麻里(多摩美術大学)

#### 20 世紀

アドリエヌ・リッチが描く歪んだ景色

講師 水口小百合(江戸川大学)  
自分という風景——エドワード・トマスの内省と詩の出会い  
講師 五十嵐奈央(宇都宮大学)

**基調講演「Ada Limón の *You Are Here* とエコロジカル・グリーフ——現代風景詩が果たす役割」(16.45 -)**

司会 五十嵐奈央(宇都宮大学)  
講師 古村敏明(明治学院大学)

● 研究発表とオムニバス発表の間、およびオムニバス発表と基調講演の間に、「お茶つと会」という休憩時間を設けております。この時間はお茶を飲みながら、自由に歓談（チャット）をお楽しみください。

主催: 英詩研究会

協力: 慶應義塾大学教養研究センター

科研費「20 世紀イギリス詩における詩人の自意識と伝統形式・ジャンルの使用との関係」(若手研究 20K12952 研究代表者: 五十嵐奈央) (シンポジウム)

-----  
懇親会: HUB 慶應日吉店 (18:30 から) @日吉キャンパス協生館 1F

懇親会費 5000 円 (学生料金 3500 円)

## 要旨

### ◆研究発表

◇「W. H. Auden の新たな時代——*Another Time* の “Occasional Poems” を読む」

・・・藤田萌々子 (同志社大学大学院)

本発表の目的は、1930年代イギリスを代表する詩人 W.H. オーデン (1907-73) がアメリカに渡って初めて出版した詩集 *Another Time* (1940) において、彼が第二次世界大戦に向かった新たな時代をいかに表象したのかを明らかにすることである。*Another Time* の巻末の “Occasional Poems” と題されたセクションには、スペイン内戦を語る “Spain 1937”、先輩詩人を追悼する “In Memory of W. B. Yeats”、そして、第二次世界大戦が勃発した日のニューヨークを描く “September 1, 1939” など、オーデンの代表作と評される作品6編が執筆順に並べられている。モダニズム第一世代の遺産を批判的に継承するオーデンは、イエイツの作品に範を求めながら、語り手の私的な声が公的な意義を獲得する点に Occasional poems の豊かな詩的可能性を見ている。当初は別々に発表された6編の Occasional poems を時系列で読みながら、オーデンが刻一刻と変わりゆく第二次世界大戦前後の様々な Occasions にどのように反応していたのかを追体験することによって、語り手の私的な声が個人を超えた時代の証言に変容する過程を分析する。

### ◆シンポジウム「詩と風景」

◇オムニバス発表

・・・円浄ゆり(同志社大学)

木村明日香(中央大学)

木谷巖(帝京大学)

石川大智(慶応義塾大学)

倉田麻里(多摩美術大学)

水口小百合(江戸川大学)

五十嵐奈央(宇都宮大学)

英詩における「風景」は、シンポジウムなどでもよく取り上げられる人気のテーマの一つである。しかし、「風景」はまだまだ大きな批評的可能性を秘めているのではないだろうか。元々は画家の専門用語として用いられた “landscape” は「風景画」や人々の住む街や建造物を含む「風景」を意味することが多い一方、こうした地理的な面以外にも、その「風景」を見ている詩人自身の「心象風景」をも感じさせる作品が英詩にはある。また、「風景」が喚起するものは時代や地域によっても大きく異なる。このシンポジウムでは、16世紀から

現代までの幅広い年代の作品を読みながら、発表者同士、およびフロアとの質疑応答の形でディスカッションを通じて、英詩における「風景」および「風景」が持つ新たな可能性について一緒に考えてみたい。

#### 登壇者 略歴

##### 円浄ゆり

英国サセックス大学 Ph. D. (English)。同志社大学文学部英文学科助教。専門は初期近代英文学（特にエドモンド・スペンサーとウィリアム・シェイクスピア。ベン・ジョンソンも勉強中）。初期近代ヨーロッパの人文主義教育思想及び学校教育に関心があり、教育の観点から作品を分析している。趣味はルネサンス・リュートを弾くこと。

##### 木村明日香

中央大学文学英語文学文化専攻所属。専門は初期近代英国演劇。現在は成人劇団における少年俳優のリクルートメント、演技指導などに関する研究を行っている。

##### 木谷巖

帝京大学教育学部教育文化学科教授。専門はイギリス・ロマン派詩人 P. B. シェリーによる「感性の詩学」およびその後世への影響について。最近の研究テーマはシェリーの詩学をつうじて見る「長いロマン主義」とロマン主義的モダニティについて。

##### 石川大智

慶應義塾大学 理工学部 外国語・総合教育教室 専任講師。専門は「長い 19 世紀のイギリス文学・文化史。特に 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけてのイギリス唯美主義文学・芸術の諸相を、より広い精神（文化）史の中で位置付けるべく研究を続けている。ペイター、ワイルド、ラスキン、シモンズ、ハーンらを含む当時の文人ネットワークにおける詩的散文の役割とその知的伝統にも関心がある。古書と猫と詩的なものを愛でながら、迫りくる散文的な現実と日々格闘している。

##### 倉田麻里

多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科非常勤講師。専門は 19 世紀から 20 世紀初頭のアメリカ詩。現在は「逃亡者」と自称するアメリカ南部の文学グループを中心に研究している。

##### 水口小百合

江戸川大学メディアコミュニケーション学部情報文化学科専任講師。専門は 20 世紀アメリカ詩。現在はエズラ・パウンドやアドリエヌ・リッチを研究している。

五十嵐奈央

宇都宮大学共同教育学部助教。専門はルイ・マクニースの詩をはじめとする 20 世紀前半のイギリス・アイルランド詩。近年は、ルイ・マクニースの詩や第一・二次世界大戦詩を、詩のジャンル・形式や先行詩人からの影響を含む文学的伝統との関連から論じることに関心を持っている。

◇基調講演「Ada Limón の *You Are Here* とエコロジカル・グリーフ——現代風景詩が果たす役割」

・・・古村敏明(明治学院大学)

第 24 代アメリカ合衆国桂冠詩人の signature project として、Ada Limón は 2024 年に *You're Here: Poetry in the Parks* という企画を実行し、*You're Here: Poetry in the Natural World* という題名のアンソロジーを刊行した。Limón は、このプロジェクトの趣旨について、“I wanted something that could both praise our sacred and natural wonders and also speak the complex truths of this urgent time” と語る。その意図するところには崇高な自然への敬意のみならず、ecological grief, solastagia, eco-anxiety などへの問題意識も含まれると考える。

本発表は、*You Are Here* の作品群を中心に、現代における風景詩の意味と役割について考察する。William Wordsworth の *The Prelude* におけるアラブ賢人の夢や、Percy Bysshe Shelley の *Alastor; or The Spirit of Solitude* などの pastoral elegy に代表されるように、ecological grief や eco-anxiety は以前から存在していた現象だが、特に気候変動による心身への影響が多く分野で研究されている現代において、詩はどのような役割を果たすべきか。Caroline Forché の言説に代表されるような witness としての役割、John Gery が述べるような the way of nothingness の表現、Carole Gilligan が提唱する ethics of care の体現など、現代アメリカ風景詩が果たす役割の可能性について考える。

基調講演者

古村敏明教授 略歴

ミシガン大学アナーバー校で英文学の博士号、コーネル大学で MFA を取得し、2024 年 4 月より明治学院大学文学部英文学科の教授。専門は、近現代アメリカ詩、エレジー研究、グリーフ研究。研究論文や詩が、*ELH*、*Bishop-Lowell Studies*、*The Louisville Review* など、多数の学術誌や文学雑誌に掲載されている。著書 *Lost Loss in American Elegiac Poetry: Tracing Inaccessible Grief from Stevens to Post-9/11* (Lexington Books, 2020) が日本アメリカ文学会賞を受賞。

慶應義塾大学日吉キャンパス来住舎大会議室の場所は HP 内のこちらの地図をご覧ください。リンク：<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/hiyoshi.html>

当日のご連絡は 080-2551-8412 (井上和樹)、[engpoetrysocj@gmail.com](mailto:engpoetrysocj@gmail.com) まで